

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション (GSP・上級)			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

Intercultural communication is an academic field of study which started in the U.S in 1960s. The purpose of this course is to understand factors of miscommunication in intercultural contexts and nurture a positive attitude towards cultural diversity.
異文化コミュニケーションは1960年代のアメリカ合衆国で始まった学問的かつ実践的分野である。本コースの目的はクラスでの英語学習活動を通して、異文化の状況で起こるミスコミュニケーションの原因を理解し、文化的多様性に対する肯定的態度を醸成することである。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) Understanding theories and concepts of intercultural communication. (異文化コミュニケーションの理論と概念を理解できる。)
(2) Being aware of your "self" and your own culture. (自己と自文化に対する気づきを深めることができる。)
(3) Being aware of various aspects of different cultures and showing respect to cultural diversity. (異文化におけるさまざまな側面に対する気づきを深め、文化的多様性に敬意を表すことができる。)
(4) Developing your English communication skills through various class activities. (様々な授業内活動を通じて英語コミュニケーション力を身につけることができる。)

* In this course English is used as a means of communication to fulfill the above goals. (本コースでは、英語そのものを学習することが目的ではなく、英語を使って異文化コミュニケーションを学習することを目的とします。)

提出課題

授業で配布するテキストの内容に準拠して担当者が作成したワークシートに取り組み、さまざまな課題を提出する。

課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法

小テストの結果に対して助言を与え、受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導する。

評価の基準

(1) Homework (40%) (課題)
(2) Quiz (20%) (小テスト)
(3) Final Examination (40%) (定期試験)

*In order to pass this course, you must fulfill all the requirements written above.
*Details of class activities will be announced in the first class.
(単位取得には上記のすべての要件を満たす必要がある。授業活動の詳細は、第1回目の授業で説明する。)

履修にあたっての注意・助言他

- コースの評価は、上記の成績評価基準のすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
- 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者となり、特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- 規定の時間以上の遅刻は欠席となり、また、規定以上の回数欠席すると単位が取得できない。
- 教科書は必ず購入すること。当然、購入しているという前提で授業を実施します。教科書がないことにより生じる不都合は自己責任となる。また、教科書を購入しない人は単位を取得できない。
- 提出課題を含むすべての連絡はRyuka Portalの「講義連絡」を通じて行うので、必ず毎週確認すること。

教科書	.Speaking of Intercultural Communication.	Peter Vincent	Nan'un-Do	1,900	978-4-523-17840-8
-----	---	---------------	-----------	-------	-------------------

参考図書					

その他

テキストの内容に準拠した担当者作成のワークシート等、適宜、Ryuka Portalの「講義連絡」を通じてを配布する。

授業計画

回 授業計画

- Course guidance / Unit 1 Communication
- Unit 2 Culture
- Unit 3 Nonverbal Communication
- Unit 4 Communicating Clearly
- Unit 5 Culture and Values
- Unit 6 Culture and Perception
- Unit 7 Diversity
- Unit 8 Stereotypes
- Unit 9 Culture Shock
- Unit 10 Culture and Change
- Unit 11 Talking about Japan
- Unit 12 Becoming a Global Person
- Cultural Assimilator
- Critical Incident
- Cultural Complexity

* 授業の進捗状況により、登週に内容が持ち越される場合がある。

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

ア: PBL (課題解決型学習)	イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習: テキストの各ユニットのエッセイの単語の意味の検索および読解、各ユニットに関する担当者作成のワークシートに取り組み、次回のクイズの準備 (2時間)

復習: その日に学習した内容の復習 (ワークシートの添削面所の確認、テキストのエッセイのリスニング、リーディングセクションの音読を含む) (2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

基本語彙と文法事項を定着させることで実用的かつ基礎的な語学力を修得する。また、読解練習を通して海外の社会や文化について学び、基本的な読解と内容理解・情報収集に習熟することにより、卒業時に身につけておくべき読解・能力の育成につながる。これらの能力は専攻学生に求められる音楽界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつわる情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業後に毎回コメントや質問を提出することを必須とし、翌週の授業で回答する。受講生からの提出物を添削し、助言を与える。

実務経験の有無及び活用

備考

前掲のように、教科書を購入せずに受講した場合、単位は認定されません。教科書を持っていないことによって起こる不都合は自己責任となります。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えるので、必ず出席すること。